



朝鮮通信使ってなに？



海を越えてやってきた友好の使者

- 朝鮮通信使は、豊臣秀吉の朝鮮出兵により一時途絶えた日朝間の国交を、徳川家康の命を受けた対馬藩の外交努力により回復したことを背景に、1607年に初めて来日。その後、江戸時代を通じて計12回（下蒲刈へは11回）来日し、両国の平和と友好の象徴とされました。
- 通信使一行は、漢城（現在のソウル）から江戸（現在の東京）へ約2,000kmの道のりの途中、瀬戸内海を通過して下蒲刈にも寄港しました。当時、下蒲刈は海上交通の要衝であり、広島藩の接待所が置かれ、朝鮮からの使節を迎える重要な拠点となっていました。
- こうした歴史は今も島に色濃く残り、当時の交流の様子を伝えています。下蒲刈島の松濤園の「朝鮮通信使資料館御馳走 一番館」には、朝鮮通信使と下蒲刈島との関わりを示す資料やジオラマが展示されています。ぜひ おでかけください。



朝鮮通信使再現船の航行ルート

- かつて朝鮮王朝が使節団を派遣する際に使われた「朝鮮通信使船」が、260年余りの時を経て瀬戸内海を航行します。
- 2025年大阪・関西万博における韓国ナショナルデー（5月13日）に向け、釜山を出発し、対馬、壱岐、下関、上関を経て、このたび呉市に寄港しました。
- この後は福山市鞆の浦、瀬戸内市牛窓を經由して大阪へ到着予定。再現船は韓国の国立海洋遺産研究所が歴史資料を基に再現した、全長約34メートル・149トンの木造船。日韓友好の架け橋となる航海です。



朝鮮通信使再現行列について

- 朝鮮通信使再現行列は、かつて朝鮮通信使がたどった歴史と友好の足跡を今に伝える催しとして、下蒲刈で毎年10月に行われています。今年も令和7年10月19日（日）に実施予定です。
- 今回は、その魅力をより多くの方に知っていただくため、再現船の寄港にあわせて特別に大和波止場で開催します。
- 行列の隊列、衣装、通信使の持ち物も絵図や記録をもとに忠実に再現され、韓国の伝統音楽とともに練り歩く様子は、迫力と歴史情緒を感じていただけます。



海を渡る友情、呉市で再び

朝鮮通信使再現船

呉市寄港イベントガイド



寄港イベント〈雨天決行・荒天中止〉

令和7年 5月5日 祝日 10:00→16:00

イベント会場〈朝鮮通信使再現船寄港地〉

大和波止場

入場無料 / 大和ミュージアム海側広場



5月	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00
5日 祝日		入港歓迎式典	船内自由見学	朝鮮通信使再現行列	船内自由見学	乗船体験①		
		マイクレマルシェ・在日本大韓民国民団						
6日 祝日		観光船ゆきひめで行く下蒲刈クルーズツアー①			観光船ゆきひめで行く下蒲刈クルーズツアー②			
			乗船体験②		船内自由見学		乗船体験③	

※イベントを行っていない時間帯は自由に船内見学ができます。時間帯は前後する場合があります。
 ※雨天の場合、朝鮮通信使再現行列は中止となります。※駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。
 ※乗船体験・下蒲刈クルーズツアーは事前予約制です。



主催 | 呉市 共催 | 公益財団法人 蘭島文化振興財団

お問い合わせ：呉市文化スポーツ部文化振興課 Tel.0823-25-3462



呉・大博覧会